

短 報

ユビソヤナギの分布 (大橋広好^a, 菊地 賢^b, 指村奈穂子^c, 藤原陸夫^d)

Hiroyoshi OHASHI^a, Satoshi KIKUCHI^b, Naoko SASHIMURA^c and Rikuo FUJIWARA^d: Distribution of *Salix hukaoana* Kimura (Salicaceae)

Summary: *Salix hukaoana* Kimura was described from Gunma Prefecture in 1973, and then the species has been recorded sporadically in northern Honshu, in Gunma, Fukushima, Miyagi, Iwate and Akita Prefectures. A new record of the species from Yamagata Prefecture on the Japan Sea side region is reported here, together with the habitat in Akita Prefecture which has not been reported so far. The localities of *S. hukaoana* are all overflow river beds along upper rivers in deep mountainous areas in Ō-u and Echigo mountain ranges. *Salix hukaoana* is usually associated with *Salix udensis* Trautv. & C. A. Mey., *S. dolichostyla* Seemen subsp. *dolichostyla* and subsp. *serissifolia* (Kimura) H. Ohashi & H. Nakai and *Populus suaveolens* Fisch.

ユビソヤナギ *Salix hukaoana* Kimura は1972年に群馬県みなかみ町湯桧曽の湯桧曽川(利根川の支流)沿いの氾濫原で発見された(Kimura 1973). このヤナギについては木村(1989)が詳しく記載している. 発見後, ユビソヤナギは宮城県加美町鳴瀬川と大崎市江合川水系の軍沢川(竹原・内藤 1986), 岩手県西和賀町和賀川(竹原 1995), 秋田県(藤原 1996, 2002), さらに福島県只見町と南会津町の伊南川水系(鈴木 2004, 鈴木・菊地 2006, 只見町教育委員会 2006)にも分布することが明らかになった. 一方, 群馬県では利根川最上流部のみなかみ町藤原奈良沢でも発見され(坂・井出 2005), さらに指村, 菊地らによって奈良沢の奥や近隣のコツナギ沢でも集団が確認された. 秋田県を除くと, ユビソヤナギは三国山脈から奥羽山脈へ続く脊梁山脈中の, 比較的広い谷底をもつ山地河川の上流にある氾濫原であった(鈴木・菊地 2006).

今回新たに菊地と指村によって発見された生育地は山形県鶴岡市(旧朝日村)の大鳥川水系と小国町の荒川水系上流である. 証拠標

本は東北大学ハーバリウム(TUS)に保存する. 詳しい産地は証拠標本リストに挙げた. 大鳥川は朝日山地以東岳の北に発し, 北に流れて赤川に合し, 日本海に流れる. 荒川水系は赤川水系と全く異なり, 米坂線に沿って西に流れ, 新潟県で日本海に入る. 両方の生育地は朝日山地で大きく隔てられている. 生育地の地形は山地河川上流の氾濫原である点はこれまでに知られている太平洋側の生育地とよく似ている.

この機会に, 同じく日本海側の地域にある秋田県の生育地についても記録しておきたい. ユビソヤナギの存在は「秋田県植物目録」第8版(藤原 1996), 同10版(藤原他 2002)および「秋田県植物分布図」(藤原 2000)に記録されていたが, 生育地については発表されていなかった. 調査は藤原によって1995年に行われた. ユビソヤナギの生育地は秋田県仙北市(旧田沢湖町)シトナイ沢, 高度450 m. 砂防堰堤上部の堆積地で, 4本が確認された. これらは高木, 最大のもので胸高直径約20 cmであったが, 堰堤建設後に侵入したと思われる. 恐らく周辺にはさらに生育するであろう.

これまでの知見からユビソヤナギの分布について整理すると, 北限は秋田県仙北市田沢湖シトナイ沢であり, およそ北緯39度40分, 東経140度47分に位置する(緯度と経度は国土地理院地図閲覧サービスの数値を基礎として, 30秒以上を1分に切り上げて分までの単位で示した. また, 生育地点はおおよその位置を示す. 以下同様). 太平洋側では岩手県西和賀町大荒沢川が北限でおおよそ北緯39度33分, 東経140度49分に位置する. 南限は最初の発見地群馬県みなかみ町湯桧曽川でおおよそ北緯36度49分, 東経138度58分である.

Kimura (1973)は原記載で, ユビソヤナギがコゴメヤナギ, オノエヤナギおよびオオバヤナギと共に生えることを記録した. 宮城県鳴瀬川ではユビソヤナギはオオバヤナギ, ド



Fig. 1. *Salix hukaoana* Kimura. Yamagata Pref.: Tsuruoka-shi, Ootori, along river Ootori-gawa, lower Arasawa Dam. 7 Sep. 2006. S. Kikuchi (TUS 335809).



Fig. 2. *Salix hukaoana* Kimura. Yamagata Pref.: Oguni-machi, along river Arakawa, near Ooishibashi. 28 Sep. 2006. S. Kikuchi (TUS 335811).

ロノキと共に生えていた (竹原・内藤 1986). 竹原 (1995) は西和賀町和賀川上流におけるヤナギ林の種組成を詳細に調査し、ユビソヤナギはオノエヤナギ群落内でよく発達し、シロヤナギ群落中にはオオバヤナギと共にわずかに混生したとしている。藤原の1995年の調査では秋田県シトナイ沢の群落にはユビソヤナギの他にオノエヤナギ、シロヤナギ、バツコヤナギ、ドロノキ、低木にイヌコリヤナギ、ネコヤナギが記録された。鈴木・菊地 (2006) は福島県伊南川水系においてユビソヤナギはシロヤナギと結びつきが強く、次いでオノエヤナギであり、ときにオオバヤナギと共に群落を作ると記録した。このように、ユビソヤナギはオノエヤナギと同じ群落に生育することがふつうである。

ユビソヤナギとオノエヤナギは共に若い葉

に密に綿毛があり、葉のへりは裏側に巻く。両種とも成葉は狭卵形から狭楕円形、鋭尖頭で非常によく似ていて変異の幅も大きい。オノエヤナギは円みある鋸歯縁、葉裏には短直毛がある。ユビソヤナギでは鋸歯縁に円みなく、葉裏には曲毛がある。ユビソヤナギの若い枝では冬芽が大きい。

Kimura (1973) はユビソヤナギはオノエヤナギとして見逃されていたのだらうと述べた。確かにこの可能性は高いと思われ、今後の発見が期待される。

ユビソヤナギ *Salix hukaoana* Kimura

分布：秋田，岩手，宮城，山形（新産地），福島，群馬。

証拠標本。秋田県田沢湖町シトナイ沢，450 m alt. 15 Sept. 1995 Y. Abe (AKPM 49968). 山形県鶴

岡市(旧朝日村)大鳥, 大鳥川荒沢ダム下流38°30'26"N, 139°47'12"E., 27 Sep. 2006. S. Kikuchi (TUS 335806); 大鳥, 西大鳥川38°27'50"N, 139°45'45"E., 26 Sep. 2006 (TUS 335810); 大鳥, 東大鳥川, 38°26'45"N, 139°47'41"E. 7 Sep. 2006. S. Kikuchi (TUS 335807; Fig. 1), loc. cit. 38°24'53"N, 139°48'55"E. 7 Sep. 2006. S. Kikuchi (TUS 335809); 小国町大石橋付近, 荒川岸38°12'36"N, 139°50'31"E. 28 Sep. 2006. S. Kikuchi (TUS 335811; Fig. 2).

この報告は, 独立行政法人森林総合研究所鈴木和次郎博士に文献と福島県のユビソヤナギ標本について, 岩手大学人文社会科学部竹原明秀博士に文献に関して, 秋田県立博物館阿部裕紀子氏に標本借用で, それぞれお世話になりまとめることができた。お礼を申し上げます。

引用文献

- 藤原陸夫 1996. 秋田県植物目録. 第8版. 秋田植生研究会, 秋田県湯沢市.
 — 2000. 秋田県植物分布図 第2版. 秋田県環境と文化のむら協会, 秋田県五城目町.
 —, 松田義徳, 阿部裕紀子 2002. 秋田県植物目録. 第10版. 秋田植生研究会, 湯沢市.
 Kimura A. 1973. *Salicis nova species ex regione Okutonensi in Japonia*. J. Jpn. Bot. **48**: 321–326.

- 木村有香 1989. ヤナギ科. 佐竹義輔, 原 寛, 亘理俊次, 富成忠夫 (編): 日本の野生植物 木本 I: 31–51. 平凡社, 東京.
 坂奈穂子, 井出雄二 2005. 利根川最上流部にてユビソヤナギを確認. プランタ (97): 47–50.
 鈴木和次郎 2004. リレー連載レッドリストの生き物たち 16 希少樹種ユビソヤナギ. 林業技術 (746): 32–33.
 —, 菊地 賢 2006. 福島県只見川水系における絶滅危惧種ユビソヤナギの分布と川畔林の組成・構造. 保全生態学研究 **11**: 85–93.
 只見町教育委員会(鈴木和次郎, 菊地 賢) 2006. 福島県只見川水系における希少樹種ユビソヤナギの生態と遺伝. 只見町文化財調査報告書第14集.
 竹原明秀 1995. 和賀川上流のヤナギ林およびユビソヤナギの分布. 自然誌研究年報 **1**: 11–21 (長野生物研究所).
 竹原明秀, 内藤俊彦 1986. 宮城県内のユビソヤナギ. 植物研究雑誌 **61**: 127–128.

(*980-0862 仙台市青葉区川内
 東北大学植物園津田記念館,
 *305-8687 つくば市松の里 1
 独立行政法人 森林総合研究所,
 *350- 埼玉県鶴ヶ島市
 *253- 神奈川県茅ヶ崎市)

Hideaki OHBA: New Names of in Genus *Cerasus* (Rosaceae–Amygdaloideae) サクラ属の新学名 (大場秀章)

Summary: I prepared the text of an illustrated book, 'Flowering cherries, new edition', published by Yama-kei Publishers Co Ltd., Tokyo in March, 2007. I published 23 new names of flowering cherries in this book. After publishing this, I found two of these were already published by K. Yonekura in J. Jpn. Bot. Vol. 80 (2005). I announce here these new names, corrections and some additional remarks.

1) *Cerasus* × *amedama* H. Ohba in H. Ohba & al., Flowering Cherries, new ed.,

[102], 253 (2007).

Prunus incisa Thunb. var. *globosa* Kawas. in J. Jpn. Bot. **36**: 170 (1961).

Japanese name: Amedama-zakura.
 (アメダマザクラ)

This, found at Manazuru Cape, near Odawara, Kanagawa Prefecture, central Honshu, is presumed to be a natural hybrid between *Cerasus incisa* (Thunb.) Loisel. and *C. speciosa* (Koidz.) H. Ohba, and differs from the former by the glabrous, longer petioles. and the longer petals ca. 1.6 cm long. The epithet comes from a Japanese word